

科学研究がインフル注射の真の危険とメディアの隠ぺいを 暴露

免疫注射は免疫システムを年々、破壊していくことを発見

【訳者注】季節になると気軽に、インフルエンザの予防接種を受けるようなことをやめよ、という重大な忠告である。ハーバード大学からも、同じ趣旨の研究結果が発表されている。
<http://www.nnettle.com/sphere/508-harvard-study-proves-unvaccinated-children-pose-no-risk> このワクチンを受けた人々は、人体が自然にもつ免疫力が確実に低下し、かえって病弱になっていく。これは想像でもほぼ分かることで、真の問題はそこにはない。深刻な問題は、政府、医薬業界、メディアが、共犯者として癒着していることである。アメリカでは、ワクチンを拒否する子供や親が処罰されたり、ワクチン拒否運動をする医者が暗殺されたりしている。人々はいとも簡単に暗殺されるが、それが新聞に出たり、犯人が捕まったりしたためしはない。一般の人々は、まさか政府が、大企業が、大新聞が、と思って信頼しているが、彼らは結局、大企業の犠牲、人口削減の対象になっている。ところで、民衆からの暴動がそのために起こるのならわかるが、今起ころうとしている“アンティファ”の暴動は、(ワクチンを批判する) トランプを倒せ、という暴動である。ワオ！

Jay Greenberg, www.nnettle.com

October 24, 2017



科学研究者団は、ビッグファーマ (Big Pharma, 大製薬業界) が、インフルエンザ・ワクチンの接種を続けることによって、年々、身体の免疫システムが破壊されていくという証拠を、隠ぺいしてきたことが明らかにした。 <http://www.nnettle.com/tags/big-pharma>

オハイオ州立大学 Wexner メディカルセンターの科学者たちは、医学研究を続け、インフルエンザ・ワクチンを受けた女性たちは、その次の年から、免疫システムの反応が弱くなっていることを発見した。

https://en.wikipedia.org/wiki/Ohio_State_University_Wexner_Medical_Center

定期的に免疫注射を受ける人々は、ますます病気になるようになるので、もっと注射が必要なのかと考え、注射に頼る傾向が、年々、大きくなっている。

製薬会社はこれらの危険を知っていながら、この注射が引き起こす病気が利益をもたらすので、その証拠を隠ぺいしているらしいことが、分かっている。

Natural News によると、この研究チームのリーダー、Lisa Christian 博士は、このように言っている：「ますます明らかになっている証拠によって、前の年にインフル注射を受けた人々は、次の年には、抗体反応が明らかに低下しています。」

この研究は更に、インフル注射産業——と、その共犯企業の経営するメディア——の公式物語はウソであり、故意に騙そうとしていることを証明している。 <http://vaccines.news/>

絶対安全に保護するどころか、インフル注射は現実には、人々をよりインフルエンザに罹りやすくし、当然、より多くの人々をインフルエンザに罹らせる。すると人々は勘違いして、もっと多くの保護が必要なのかと考え、さらに注射をするのである。

<https://youtu.be/yD4re8S4xMA> (驚くべき科学研究：インフル注射はインフルエンザを増加させる)

だが、インフルエンザ感染の増加を招いているのは、その予防注射自体である。

言いかえると、インフル・ワクチンの需要は、自然のままの状態より、もっと速やかに故意にインフルエンザを蔓延させてつくり出すもの、という神話が永続化される。(訳者：たった今、NHK ニュースは、「ワクチンの量が今年は少ないので、早めに受けるように」言っていた。)

この構造は、ニセ科学と、無情なメディア・プロパガンダに根づく、“見事な”自己永続化の医療ペテンである。<http://fakescience.news/> <http://propaganda.news/>

参考記事：

- ・「ドナルド・トランプの公言：ワクチンは自閉症につながる」
- ・「警察発表：反ワクチンのホーリスティック医療家 **Ann Borock** が殺される」（紹介済）
- ・「ビル・ゲイツのワクチンに墮胎薬が発見される」（ゲイツは代表的人口削減推進家）
- ・「ワクチン：15人の子供が、はしかワクチン接種計画のために死ぬ」
- ・「インドが、ビル・ゲイツの不法な癌ワクチン・テストの結果、彼との絆を絶つ」